

新宿 月間最終盤に学習会

消費税は預り金ではない

2023年10月から、強引に導入されようとしているインボイス制度(適格請求書保存方式)。弱者に税金の押し付け合いを強いるこの制度に対して、建設業はもちろん、各業界から中止・延期を求める強い怒りの声が上がっています。

新宿支部は、春の拡大月間、最終盤の結節点として、「ストップインボイス」建設業での相談や対応はどうすればいいの?」をテーマに5月26日、建設プラザ東京にてセミナーを開催、会場とWEBで合計33人が参加しました。

国がインボイスの事業者登録について、3月末までではなく、10月実施直前の9月末まででよい、と態度変更しているこの時期として、とても

貴重なポイントを学べるセミナーとなりました。隅田祐太郎副委員長が司会を務め、講師は本部税金対策担当の山本高明専従常任中執にお願ひしました。主なポイントは次の通りです。

①「今まで免税事業者は取引相手から預かっているはずの消費税を納めていないのでインボイスの導入で公平になるだろう」という考え方による議論は間違っているという判決が出されている。

②簡易課税事業者(年間売上5千万円未満で選択可能)

③完全手問請の外注職人の場合、今インボイスの事業者登録をすることは、年間数十万円の消費税を全額自己負担することを確定することになる。

④実質労働者の手問請職人

の上位業者(発注業者)は下請けからインボイスを提出してもらわなければならない。売り上げ5千万円未満の上位業者(発注業者)はあえて本則課税から簡易課税に切り替えるという事も検討に値する。

③完全手問請の外注職人の場合、今インボイスの事業者登録をすることは、年間数十万円の消費税を全額自己負担することを確定することになる。

④実質労働者の手問請職人



WEB併用で参加33人

を外注として使っていた場合、税務調査などで外注業者の労働者性を問われ、会社側に外注費否認というリスクが

声ひろがればストップ可能

昨年、電帳法は延期に

全国的に、建設業のみならず俳優、作家、アニメ業界など、多種多様な業界で、延期や中止を求める運動が広がっており、東京土建も一緒に全面的に取り組んでいて、世論次第では延期に持ち込める可能性があること。昨年12月には1月より実施が予定されていた電子帳簿保存法の原則運用が急に猶予されることにな

った例もあること、なども紹介されました。参加者からは積極的に具体的な質問が多数出されました。「10月以降、免税事業者でインボイスの申請をしていない業者から見積もりを取る場合、どうしたらいいか」との質問には、「免税業者の場合、消費税10%については、別枠で明記せずに、基本的に総額で明記することが良い。もちろん、別枠で表記がされていても国税庁などで問題になるということではない」「免税業者が仮に10%を載せていたとしても、それを含めた金額がその業者にとって請負価格となるということだ」などと答弁がありました。

弱者いじめのインボイス、備えながらも連帯して中止に

新宿ロフトプラスワンで行なわれたこの「作戦会議」には多彩なゲストが出演しました。(一面にも関連記事)

政策コンサルタントの室伏謙一さんは「インボイスの導入で実質的に消費税の課税対象を広げようとしている。消費税は間接税でもなんでもなく、事業者を対象とした第二法人税だ。要するにさらに税金を取りたいという財務省の発想だ。この不景気の中でインボイスをやろうとする財務省はマクロ経済をわかっていない。今のこの状況においてやらねばならないのは減税だ。私たちは、財務省のエリートマジックから解放され

なければならぬ。」と述べると、大きな拍手が。エンタメ業界などでインボイスの認知度はどうかと話をふられたタレントのラサール石井さんは中々理解が進んでいないと述べた上で「仮に税金を行なっている」と益税はないことを強調しました。

「こち亀」の声優でもあるラサール石井さんからは「あれだけアニメは儲けていながら、声優のキャラが安すぎる」ともこの日の司会を務めた声優VOICETIONの共同代表でもある岡本摩弥さんは「現場に出られる現役はまだいいが、これから夢をもってかん

ばろうとしている若声優が、インボイスでござり削られてしまう。いじめないで」と訴えました。

どうインボイスを止めるのかへの回答として、室伏さんが「まず実態を知り、多くの人に実態を知ってもらい、正しい知識を得てとどん声を上げていくこと。そうすると政治家たちも無視できない」と述べた中で一部が終了。その後、スタンダップコメディアン清水宏さんと、野党を中心とした国会議員などが参加し、「作戦会議」は夜遅く、三部まで続きました。東京土

建は6月14日のSTOPインボイス一揆への参加の他、翌15日には財務省前での行動に取り組みます。

STOPインボイス作戦会議

多彩な出演者が集結

アメリカの真似をしているが、アメリカには消費税はない。そこだけ真似しないなんて。逆進性の高い消費税は日本の社会をタマにする。インボイスは親会社に税金をとらせるという本当に姑息な制度だ」と発言しました。

金を取りたいという財務省の発想だ。この不景気の中でインボイスをやろうとする財務省はマクロ経済をわかっていない。今のこの状況においてやらねばならないのは減税だ。私たちは、財務省のエリートマジックから解放され

なければならぬ。」と述べると、大きな拍手が。エンタメ業界などでインボイスの認知度はどうかと話をふられたタレントのラサール石井さんは中々理解が進んでいないと述べた上で「仮に税金を行なっている」と益税はないことを強調しました。

「こち亀」の声優でもあるラサール石井さんからは「あれだけアニメは儲けていながら、声優のキャラが安すぎる」ともこの日の司会を務めた声優VOICETIONの共同代表でもある岡本摩弥さんは「現場に出られる現役はまだいいが、これから夢をもってかん

ばろうとしている若声優が、インボイスでござり削られてしまう。いじめないで」と訴えました。

どうインボイスを止めるのかへの回答として、室伏さんが「まず実態を知り、多くの人に実態を知ってもらい、正しい知識を得てとどん声を上げていくこと。そうすると政治家たちも無視できない」と述べた中で一部が終了。その後、スタンダップコメディアン清水宏さんと、野党を中心とした国会議員などが参加し、「作戦会議」は夜遅く、三部まで続きました。東京土

建は6月14日のSTOPインボイス一揆への参加の他、翌15日には財務省前での行動に取り組みます。



会場からは活発な質問

最後は糸副委員長のカンパローで閉会となりました。

大江健三郎さんの言葉と活動

大江 中谷登志夫

「広島島の被爆は20世紀で一番大きな出来事だ。人間の文明の問題としてとらえていきたい」。3月に亡くなった大江健三郎さんが、ノーベル文学賞が決まった直後に記者団に語った言葉だ。戦争を回避する思想家

国会で憲法論議がなされようとしているが、権力者たちが自分たちに都合よく憲法を変えようとするに、私たち国民が「力」を貸してはいけないことだと、自覚しないといけないだろう。



(江東)